

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

創る

Vol. **27**

2024.3

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

CONTENTS

特集

01 ジオパークを活かした地域づくり ～国宝指定と白滝ジオパークの取組～

洞爺湖有珠山ジオパーク/アポイ岳ジオパーク/三笠ジオパーク/とち鹿追ジオパーク
十勝岳ジオパーク/大雪山カムイミントラジオパーク構想

05 地域が動く・プロジェクト最前線

～業務委託型短時間ワークシェアリング事業～
■東川町 官民連携で取り組む「しごとコンビニ」

07 ミニ特集

「地域の未来を考える」～道内の高校生・大学生にご意見を伺いました～

江差高校/岩見沢農業高校/釧路公立大学

08 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

■石狩編 ゆめちからテラス

地域に新たな風を吹き込む

09 地域おこし協力隊へのインタビュー

■弟子屈町地域おこし協力隊 川上椋輔さん

■上士幌町地域おこし協力隊 伊藤あかりさん

特集



ジオパークを活かした地域づくり

「国宝指定と白滝ジオパークの取組」

ジオパークとは

ジオパークは「大地の公園」を意味しており、科学的に重要で貴重な価値を持つ地形や地質を保全するとともに、持続可能な発展を推進する地域のことです。大地（ジオ）の上に広がる生態系（エコ）の中で人々の暮らし（ヒト）が営まれていることから、「ジオ・エコ・ヒト」の3つの要素をつなぐ地域資源の総称でもあります。そのため、ジオパークでは大地が育んだ地域の文化や風習、グルメを体感するなど、地球を学び、丸ごと楽しむことができます。

ジオパークには、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が認定する「ユネスコ世界ジオパーク」と日本国内の独自制度である「日本ジオパーク」があります。道内には日本ジオパークが6か所、ジオパークの認定を目指す地域が1か所あり（令和6年2月現在）、そのうち、洞爺湖有珠山ジオパーク、アポイ岳ジオパークの2地域は、「ユネスコ世界ジオパーク」にも認定されています。

ジオパークは、その保護に取り組むことだけでなく、多くの方々が大地の成り立ちについて知識を深め、自然と人間の共生を深く理解する場所として活用を図ることが重要であり、歴史や地質など各地域の特色を活かしながら、貴重な地域資源として、ツーリズムなど観光振興や地域振興に繋がることとが期待されるとともに、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材として活用されることが求められています。

道では、ジオパークを活かした地域づくりを推進するため、平成29年度から、道内ジオパーク関係団体による「北海道ジオパークネットワーク連絡会議」を立ち上げ、ジオパーク間の有機的な連携を図り、道内ジオパークを本道の活性化のために有効に活用することを目的として「北海道ジオパーク活動プラン」を策定しました。プランでは、道内ジオパークの連携強化、道内ジオパークの取組促進、道内ジオパークの発信力強化を基本方針として施策を展開しています。

ジオパークを活かした地域づくり支援

こうしたプランに基づき、道では、道内各地のジオパークが集まるPRイベントの開催など、ジオパークを知らない方々への認知度向上、ジオパーク関係団体との情報交換や勉強会を通して、効果的な取組の検討や情報発信

の強化などに取り組んでいます。

今後の展開

令和2年に開催された「第23回北海道・北東北知事サミット」にて、北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県は、北海道・北東北のジオパークの一体的なPRによる認知度向上と、地域間での情報交換・情報共有を図ることを決めるなど、ジオパークによる広域的な連携も進められており、地域の歴史・文化・自然を活用した新しい人の流れの創出が期待されます。

また、遠軽町の日本最大の黒曜石の産地である「白滝ジオパーク」では、「北海道白滝遺跡群出土品」1965点が、令和5年6月に国宝に指定され、大きな注目を集めるなど、今後の地域

活性化への起爆剤となることが期待されています。

今回、国宝指定により新たな地域活性化に取り組む遠軽町取材しました。



▲VR動画でバーチャル登山体験
道が制作した、アポイ岳ジオパークが舞台のVR動画。
小学生でも楽しめる内容となっている。解説は北大生が担当。

【北海道のジオパーク】



道内の魅力的なジオパーク(構想)の地域活性の取組



▲体験プログラム
 地元中学生が高山植物の苗を育ててアポイ岳に戻す「自然環境の再生」を試みる環境教育や、認定ガイドの案内による多様なツアーや体験プログラムの実施に取り組んでいます。



▲アポイ岳と類似海岸
 地球内部のマントルに由来するかんらん岩が地表に現れてできた、世界的にも珍しいアポイ岳は、固有の高山植物が多く生育する「花の山」としても知られ、全国各地から登山客が訪れます。

アポイ岳ジオパーク



▲減災教育ガイドツアー
 地域独自の資格「火山マイスター」による減災教育ガイドツアーの実施や、教育旅行向けの「野外学習テキスト」を作成し、ウェブサイトに掲載するなど、減災教育への活用に取り組んでいます。



▲昭和神山と洞爺湖
 約11万年前の巨大噴火によってできたカルデラ湖「洞爺湖」と、約2万年前に誕生した活火山「有珠山」を中心とした雄大な景色が見どころです。

洞爺湖有珠山ジオパーク



▲しかりべつ湖コタン
 多くの観光客が訪れるなど誘客につなげています。



▲風穴(ふうけつ)
 全国的に唯一「凍(しば)れ」をテーマにしたジオパークで、凍れが作り出した、夏でも冷たい風が吹く「風穴」やそこに暮らす生き物たち、寒冷地ならではの生活の知恵や産業に触れることで、知的好奇心をくすぐる旅を楽しめます。冬になると完全結氷した然別湖の上で期間限定のイベント「しかりべつ湖コタン」が開催され、国内外から

とかち鹿追ジオパーク



▲ジオツアー
 また、食を通じた地域づくりも進めており、ジオパークに関連した商品に認定するなど、産官学連携の取組も実施しています。



▲三笠市立博物館
 1億年前の太古の生命と進化の歴史、石炭発見により栄えた炭鉱まちの文化を感じることが出来るジオパークです。これらのストーリーを活用し、見るだけではなく、五感を通じて楽しむ体験型ツアーを実施しています。

三笠ジオパーク



▲フィールドワーク
 雄大な大雪山の山々や温泉、肥沃な土壌で作られる米等の特産品の他、地域の随所にアイヌの人々にまつわる歴史や物語があります。



▲神居古潭(かむいこたん)
 狩川が削ってできた「神居古潭峡谷」の3つの工

大雪山カムイミシタラジオパーク構想



▲ジオパーク学習
 やその成り立ち学ぶことができるツアーを計画、試行しているほか、ジオパーク活動を普及するため、学校教育・生涯学習にも力を入れています。



▲波状丘陵地帯
 火山と人々の営みによって生み出された、風景、温泉、農作物を楽しむ、景観やその成り立ち学ぶことができるツアーを計画、試行しているほか、ジオパーク活動を普及するため、学校教育・生涯学習にも力を入れています。

十勝岳ジオパーク

国宝指定を契機に白滝ジオパークを核とした交流人口拡大へ

国宝指定と白滝ジオパーク

遠軽町の白滝ジオパークは、日本最大級の質・埋蔵量を誇る黒曜石が見どころの一つで、この黒曜石から、過去の地球の活動を知ることができる場所となっています。この黒曜石を生み出した火山活動と、黒曜石を道具として用いた旧石器時代の人々について学び・体感することで、大地と人のつながりを感じるができます。この白滝から出土した「北海道白滝遺跡群出土品」1965点が、令和5年6月に国宝に指定されました。

遠軽町では、この指定による効果を地域全体に波及させるため、白滝ジオ



▲白滝ジオパーク交流センター(遠軽町白滝総合支所1階内)のように黒曜石ができたのかを学べる施設。

パークを拠点とした地域活性化の取組を進めています。

認知度向上に向けた情報発信

町では、黒曜石や白滝ジオパークの認知度向上に向けて、道内外のイベントへの出展や、黒曜石のアクセサリ作り体験を通じたジオパークの魅力のPRなど、町や白滝ジオパークに人呼び込むための取組を行っています。また、白滝ジオパークの特設サイトを構築することで、ジオパークの特色や魅力を発信し、興味を持った方が実際に町に訪れるきっかけとなるような環境整備に努めています。



▲黒曜石アクセサリ作り体験(札幌駅前通地下広場(チ・カ・ホ))
オホーツク総合振興局主催のオホーツクフェアでは、多くの方がアクセサリ作りを楽しんでいました。

豊富な体験プログラム

白滝ジオパークでは白滝ジオパーク交流センターを拠点に、ジオパークを体感できる「ジオツアー」を開催し、「北海道白滝遺跡群出土品」や白滝ジオパークを学ぶ取組を行っています。

個人旅行以外でも、小中学生などの教育旅行などの活用のため、学習教材やデジタル教材なども取り揃え、地域内外の子どもたちにこのジオパークの価値を体感できるメニューを用意しています。また、遠軽町埋蔵文化財センターでは、黒曜石を使った石器づくりや滑石を使って作る勾玉づくりなど、子どもから大人まで楽しめる体験プログラムも実施しています。

こうした豊富な体験プログラムにより、国宝や黒曜石について、体験しながら学ぶことができ、来訪者の知的好奇心を満足させるメニューが揃えられています。

ジオパークを拠点とした町内周遊

さらに、白滝ジオパークを拠点とした町内周遊の促進や観光客の滞留時間の延長に向け、官民連携による町内周遊ガイドやPR動画の作成にも取り組むほか、道の駅「遠軽 森のオホーツク」をはじめ、町内の飲食店や土産店

で、黒曜石をモチーフにした商品を開発するなど、町が一丸となって交流人口拡大に取り組んでいます。

取組の成果と今後の展開

このように、ジオパークを核とした地域づくり、交流人口の拡大に取り組むことにより、札幌圏や道外からの観光客が目に見えて増加しており、町ではこうした地域を盛り上げる好機を活用し、今後は、地域の魅力を伝える担い手の育成にも取り組むこととしています。地域の活性化に取り組むにあたり、黒曜石の魅力を地域や観光客に伝える担い手は欠かせない存在ですが、まだ人材は不足している状況です。

学校の授業などで黒曜石の魅力や、なぜ白滝が重要なのか、地域の子どもたちに伝える「石育」という取組を通して、地域に黒曜石の魅力を広め誇りを持ってもらい、担い手の確保に取り組んでいきます。



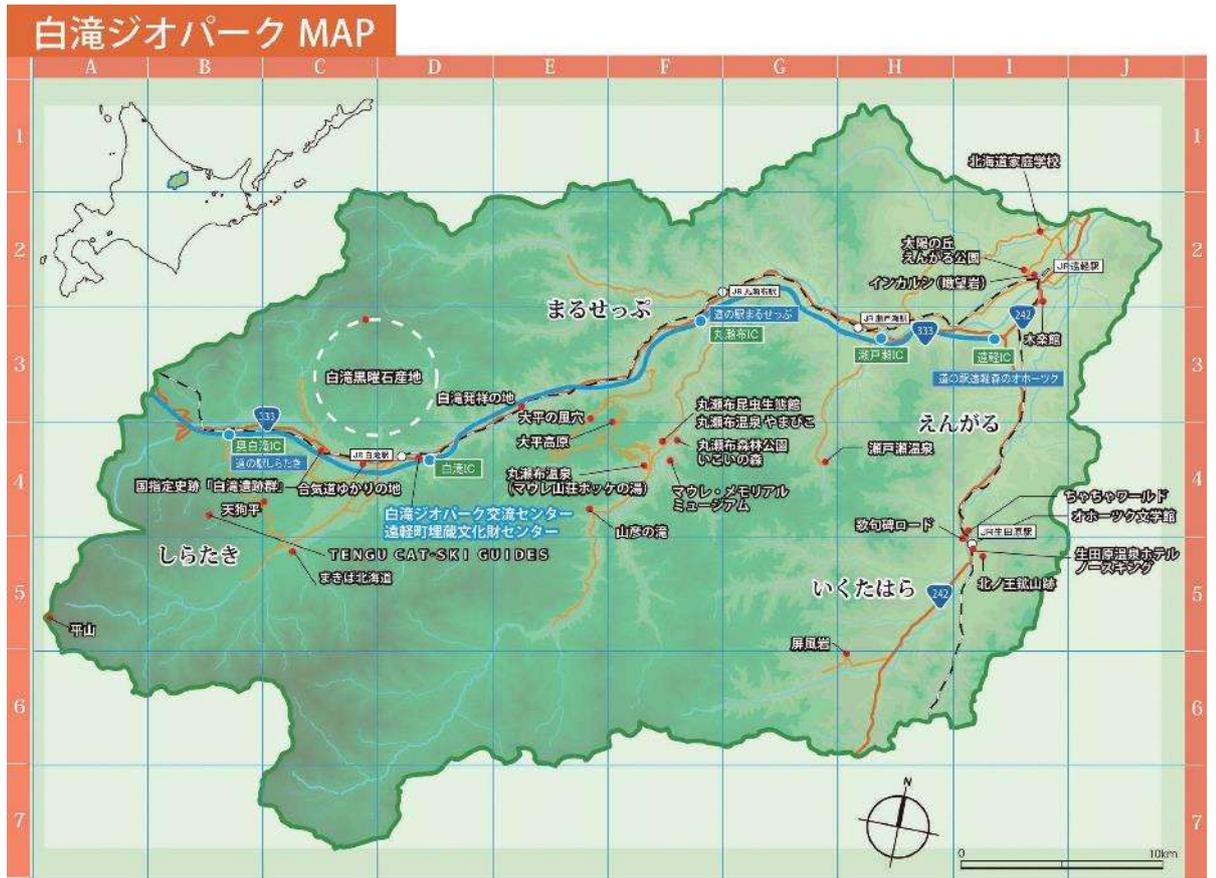
▲官民連携により、町内のガイドブックを作成し、道の駅や道内空港等で配布している。



▲黒曜石カレー
黒曜石のような黒いザンギをのせたオリジナルのカレー



▲黒ソフト
町内の人気アイスクリーム店が開発



学芸員に聞く
白滝ジオパークの魅力

国宝に指定された白滝遺跡群出土品や白滝ジオパークの魅力について、白滝ジオパーク交流センター学芸員瀬下係長にお話を伺いました。

Q 白滝ジオパークの魅力は何ですか？

白滝にある赤石山は日本最大級の黒曜石原産地で、それを利用して昔の人類の暮らしを知ることができるのです。

Q 黒曜石はどのようなしでできたのですか？

黒曜石は、火山岩の一種です。約300万年前の噴火でできたカルデラに、約220万年前に粘り気の大い溶岩が噴出し、空気に触れて急激に冷えて固まってきました。黒い見た目をしていますがほとんどは透明で、磁鉄鉱という黒色または赤色の成分がわずかに含まれているだけなんです。天然のガラスとも言われています。

Q なぜ白滝遺跡群出土品は国宝に指定されたのですか？

旧石器時代の石器の移り変わりや石器づくりの技術を知る手がかりになるからです。白滝は黒曜石産地だったの

で、旧石器時代に1万年以上もの間、多くの人類が足を運んだものと考えられています。豊富な黒曜石資源を活用した「石器工場」のような役割を持っていました。

旧石器時代では、時期によって作られる石器の形状や種類が変化していきます。それぞれの石器がどのようにして作られたのか、白滝遺跡群の調査・研究によって、さらに具体的に多くのことがわかってきています。



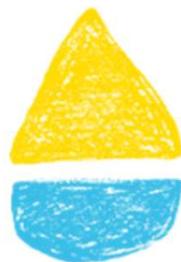
▶黒曜石のかげらをバズルのように集めて合わせると、中に空洞(写真中央の白い模型)ができ、空洞の形から石器の形状を予測できる。



しごとコンビニ事務局



東川町役場



しごとコンビニ
HIGASHIKAWA



東川町

業務委託型短時間ワークシェアリング事業
官民連携で取り組む「ジョブ・マッチング」



作業風景



東川町の現状と課題

東川町は、大雪山を望む田園風景が美しい豊かな自然環境や景観をいかし、写真文化によるまちづくりを推進し、

現在は、写真のみならず多様な文化と人の交流による地域の活性化という新たな取組を進めています。また、魅力的な宅地造成や生まれた子どもにも手作りの椅子を送る「君の椅子」事業などの特長的な取組により、平成7年から人口が増加に転じ、豊富に湧き出る良質な地下水による暮らし、充実した子育て支援や特色ある教育環境づくりにより、自分らしい豊かな暮らしに共感する人が増え、近隣市町村や首都圏との二拠点生活を目的とした移住者も増えてきています。

東川町では、こうした移住者や外国人も含めた町民ひとりひとりが個性豊かに生き、生涯にわたって活躍できるまちを目指し、2020年に全道で初めて業務委託型短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ」を導入しました。

この事業を整備することで、単なる人材不足の解消だけでなく、地域に

働く環境を生み出し、持続可能な地域経済の確立や、「しごと」を通じて若者から高齢者まで多様な方々の望む生き方の実現を目指しています。

「ジョブ・マッチング」の仕組み

しごとコンビニは、仕事を依頼する側がしごとコンビニ事務局と業務委託契約を結び、事務局が受託した業務をしごとコンビニに登録した町民に再委託する仕組みとなっています。依頼主と働く町民との間に雇用関係がないため、事前にしごとコンビニ事務局で業務についてヒアリングを行い、業務の手順書を作成し、事前に稼働者が業務の流れややり方を理解した上で業務に臨みます。そのため、依頼する側が採用や研修、労働管理などにかかる手間とコストを軽減することができるほか、町民に稼働してもらう安心感や町民に自分の事業を知ってもらう機会となる効果があります。農作業などの季節的な業務や一時的な軽作業や通年での事務作業などに人手を要する事業者のほか、家事代行、雪かきや草取りなど、生活する上での困りごとや、人に頼み



▲イベント 設営業務



▲HUCジャンボ宝くじ当選券ポイント付与業務



▲ローズマリーの収穫

どんな仕事があるの？

外仕事

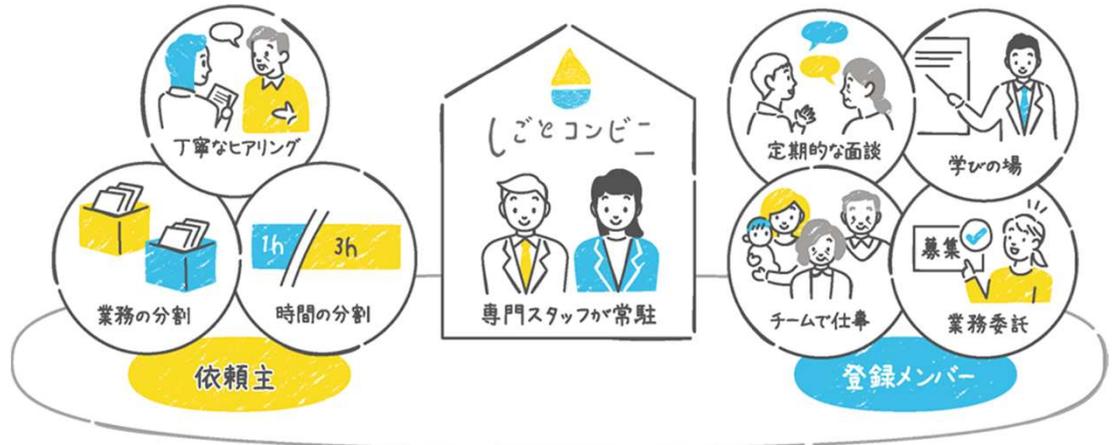
- ・公共施設などの清掃
- ・農作業・雪かき・草取り など…

事務

- ・PC作業・軽作業
- ・広報誌の入れ込み・チラシ折り・ラベル貼り・ラミネート加工
- ・ポスティング・チラシの仕分け
- ・宛名印刷・動画制作
- ・コラム執筆・梱包
- ・着付け・通訳など…

事業者の依頼はもちろん、役場や個人からの依頼もあります！

づらいちよとしたことを、専門の業者に依頼するよりもリーズナブルな料金設定で依頼することができます。一方、「しごとコンビニ」で働きたい町民は、メンバー登録を行うことで仕事の情報が配信されるので、自分で仕事を探す手間が省けるほか、面接や履歴書が必要ないことや、稼働場所が自宅から比較的近い業務が多く、通いやすく、働きやすいというメリットが多数あります。また、急な用事や体調不良時におけるメンバー間での交代や、子ども同伴可能な業務など、自分に合った条件の仕事を選んで仕事することができます。また、「しごとコンビニ」事務局では、事前に体験会の開催や、パソコン講座などの勉強会も実施しており、町民の仕事スキル向上にも取り組んでいます。



東川町では、「しごとコンビニ」を通じて、将来、小さな挑戦から身近な幸せを感じられる町民を増やし、事務局は相談を通して、町と町民を繋げて「やりたい」を叶えられる場所を増やす、そして町内ですべて賄うことのできる「なんでも地産地消できるまち」を目指しています。

令和4年度の稼働者数が837名（延べ人数）となっており、9割程

「しごとコンビニ」の期待

「しごとコンビニ」は、子育て中や定年退職後など、フルタイムやパートタイムで働くことに制限があっても「少しでも働きたい」という町民のニーズと、繁忙期や自分達ではできない作業などを「少しでも手伝って欲しい」という事業所や個人の依頼主側のニーズを、しごとコンビニ事務局が両者のヒアリングや仕事の細分化を通してマッチングすることで、「働く」を通じて地域と人をつなぐ仕組みです。雇用契約であるパートやアルバイトと違い、働きたい町民が個人事業主として業務委託契約を結ぶため、仕事をするかしないか、納期の範囲内で働く時間を自由に采配できるため、コンビニのように自分自身で働き方を選ぶことができる一方で、依頼する側も必要な時だけ、少ない手間と経費で人手を確保することができます。

「しごとコンビニ」のメリット

度マッチングすることができている状況です。

これまでの事例では、定年退職後に、この「しごとコンビニ」を通じて、地域の人と繋がることができ、地域で働くことで心配していた健康と生活維持を叶えることができたという声や、出産や子育てにより働いた期間にプランクがあった主婦が「しごとコンビニ」を経て働く自信を持ち、その後フルタイムで働けるようになったなど、町民ひとりひとりが個性豊かに生きるための柔軟な働き方の提供につながっています。仕事で「お金を稼ぐこと」以外に「人とのつながりができる」、「自分の望みが叶えられる」など新しい暮らし方や、活躍の機会を提供できることは、東川町の住みよい環境の確保に繋がります。ますます将来に向かって活力ある町になっていくことが期待できるとともに、これからの「しごとコンビニ」に大きな可能性を感じました。



東川町経済振興課 経済振興室 小林室長



しごとコンビニ 事業部 佐原部長

本記事の内容は、東川町企画総務課、経済振興課で担当しております。
東川町の「しごとコンビニ」に関するお問い合わせ先 しごとコンビニ事業部 TEL:0166-73-8737

ミニ特集

「地域の未来を考える」

道内の高校生・大学生にご意見を伺いました



道では、人口減少など本道が直面する

課題に加え、エネルギー問題や食料・経済の安全保障など、我が国を取り巻く環境の大きな変化に的確に対応していくため、現在の北海道総合計画の計画期間である2025年度を越えて政策を展開していく必要があることから、新たな総合計画を策定することとし、策定に当たっては、道内各地域の住民の皆様などから幅広くご意見を伺いながら、概ね10年後の北海道のめざす姿や具体の政策の方向性などの検討を進めています。

その一環として、次代を担う道内の高校生・大学生にも「地域の未来を考える」をテーマに、グループディスカッションを通して地域の課題やその解決、地域の強みや地域の活性化について話し合っていました。

今回は、道内の高校生・大学生の意見聴取の様子を一部ご紹介します。

▲各班に分かれたディスカッション後、意見を発表しました。



▶授業の中で、職員から新たな総合計画についての説明を行いました。

江差高校

檜山地域から、江差高校の2年生の皆さんに10班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

- ▼少子高齢化や公共交通機関が少ない。
- ▼子供の遊び場や子供から大人まで楽しめる施設が少ないなど。

【課題の解決】

- ▼若者や町外の方向けのイベントを開催。
- ▼SNSを活用して町をPRする。
- ▼町を舞台にしたアニメを制作して町を知ってもらう機会を増やすなど。

【地域の強み】

- ▼古くからの建物が並ぶ町や祭りなどの伝統的な文化がある。
- ▼自然や海産物が豊富である。
- ▼小さな規模の町だからこそ、町民どうしの顔が見え、一人一人への支援を手厚くできるのではないかと。

【強みをいかす】

- ▼景観や祭りを楽しむツアーやツーリングの観光ルートを作成する。
- ▼SNSを通じて町の魅力を伝えていくことが必要ではないかと。



岩見沢農業高校

空知地域から、岩見沢農業高校の農学土木工学科2年C組の皆さんに5班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

- ▼農家の人手不足。
- ▼豪雪地帯であるため除排雪が追いつかない、それによる交通障害が起きる。
- ▼商店街の空店舗が目立つなど。

【課題の解決】

- ▼農業のICT化を進める。
- ▼除雪のボランティア活動。
- ▼商店街を中心としたイベントの開催など。

【地域の強み】

- ▼札幌から近い。
- ▼道内各地へのアクセスが比較的良い。
- ▼遊園地やバラ園、プラネタリウムなどの観光施設がある。
- ▼音楽イベントなどが多い。

【強みをいかす】

- ▼SNSでの情報発信。
- ▼地域イベントを増やす。
- ▼駅にカフェやショッピングモールを誘致するなど。



釧路公立大学

釧路地域から、釧路公立大学経済学部東准教授のゼミの皆さんに4班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

- ▼公共交通機関が不便である。
- ▼駅前に活気がなく人通りが少ない。
- ▼若者にとって魅力がないなど。

【課題の解決】

- ▼公共交通機関の需要調査を行い、交通利用者を確保する取組を進める。
- ▼企業を誘致して若者にとって魅力的な施設が必要など。

【地域の強み】

- ▼夏は涼しく雪が少ない。
- ▼医療施設が充実しているなどの住みやすさ。
- ▼湿原や夕日などの美しい自然があるなど。

【強みをいかす】

- ▼夏季の短期移住により暮らしやすさを知ってもらうなど、夏の涼やかな気候をいかす取組を進める。
- ▼湿原を若者向けに楽しんでもらうための工夫を行うなど。





『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



2018年5月、江別市にオープンした「ゆめちからテラス」。施設内にはベーカリーや野菜直売所があり、連日多くの人で賑わっている。

江別市
石狩編



なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和5年11月8日訪問

ゆめちからテラス 編

今回ご紹介するのは、江別市郊外にある国産小麦の需要拡大拠点「ゆめちからテラス」です。

J A道央と敷島製パン株式会社（以下、Pascoco）が2018年から共同運営するこの施設内には、地元生産者が出店する野菜直売所や地元で生産された小麦「ゆめちから」をはじめチーズやとうもろこしなど道産野菜や乳製品などの素材を使った商品を製造・販売するベーカリー、セントラルキッチンなどがあり、市内外から連日多くの方が訪れ、賑わいを見せています。

この施設開店にあたっては、国産小麦の需要拡大という未来への両者の想いがありました。

「自分たちが作った小麦が最終的にどのような製品に加工されて、それを口にした消費者がどんな反応を見せるのか、生産現場から加工販売まで顔の見える小麦の流通を実現したい」と考えていたJ A道央。「国産小麦を使ったパン作りで日本の食料自給率の向上に貢献する」という方針の下、道産小麦を使った焼き立てパンを販売し、店舗の拡大戦略として札幌近郊での立地を模索していたPascoco。

その両者の理念と取組が融合し、

新たな価値創造へと繋がった場所、それがゆめちからテラスです。市外からも多くの方が訪れるこの場所は、食育の場としての側面もあり、後藤江別市長が「江別の一つの宝物」と誇るほどの場となっています。

J A道央の今村組合長も「自分で生産した小麦がパンになって、消費者に喜んでもらえる姿が目に見える。生産者や農協としても大変ありがたい拠点」と語っていました。Pascocoでは、「2030年までに自社商品における国産小麦の使用比率を20%まで引き上げる」という目標を掲げており、「ゆめちからテラス」は、国産小麦の需要拡大という両者の想いの発信基地として、現在も、そしてこれからも、みんなの「ゆめ」が叶い、「ちから」が得られる場所として、歩みを進めていきます。

「ゆめちからテラス」は、国産小麦の需要拡大という両者の想いの発信基地として、現在も、そしてこれからも、みんなの「ゆめ」が叶い、「ちから」が得られる場所として、歩みを進めていきます。



▲焼き立てパンの豊かな香りが広がるPascoco 夢パン工房
▼道産小麦をふんだんに使った焼き立てパン



多くの人で賑わうのっぽろ野菜直売所▶



なおみちカフェ（江別市）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

当日の知事の言葉から

本道が食料安全保障上の貢献をしていく中で、農家の皆さんが安定的に生産できる体制を整えながら国内消費を促す取組は、地域や国にとって極めて重要です。

道産小麦を調達して、商品を作り、さらに地域で消費するといった理想的な取組であり、その想いを多くの皆さんに知っていただきたい。こうした活動がさらに進むよう道としても後押しをしていきたいと思えます。

地域に新たな風を吹き込む 地域おこし協力隊へのインタビュー

第五弾

弟子屈町
地域おこし協力隊

川上 椋輔さん
Sakura



【プロフィール】
宮城県出身28歳。元UHB北海道文化放送アナウンサー。2020年10月から弟子屈町の地域おこし協力隊として活動中。

▼弟子屈町の協力隊となった経緯を教えてください。

弟子屈町のことは、人気ラーメン店の屋号として町名を知っていた程度でした。ちょうど、報道の限界を感じ、地域づくりの当事者になりたいと次のキャリアを模索していたときに、津別町にある道東テレビの立川社長（津別町元地域おこし協力隊）から弟子屈町が地域おこし協力隊を募集していると紹介されたのが縁です。初めて町内を見て回ったとき、川湯温泉や硫黄山、摩周湖、蕎麦など、贅沢なぐらい様々な資源がある宝石箱のような町だと感じたため、その良さを伝えることが逆に難しい、町のプロモーションに課題があるのかなと感じました。

▼弟子屈町に来て地域に馴染むために意識したことは何ですか。

着任してから初めの一ヶ月間は居酒屋にしか行っていなかったと言ってもいいくらい通っていました。そこでは町で働く様々な方、いろいろな立場の人、個性がすごく強い人、引き寄せられる人、巡り合うのが必然だったと思うような人など多くの出会いがありました。私はすべてを吸収したかったので、一人でも多くの方と会話することを意識しました。その結果、この町の地域課題に全力で取り組む意思のある人間だと町民の皆様を理解されたと思っています。

▼弟子屈町の魅力を教えてください。

町民の皆様は外から来る人に対して寛容であり、移住者が増えて町に活力が生まれてきた事だと思っています。私は今年で28歳になりますが、同世代の移住者が多くなったと身にしみて感じています。

また、親から子へ、子から孫へと世代交代が進んでいることから、前例にとらわれず新しいことがやりやすくなっていることも魅力だと思っています。



▲コワーキングスペース「ジンパ」
こちらの建物は空き家をリノベーションし、コワーキングスペースとして使用。

▼活動内容について教えてください。

協力隊として主な業務は、ユーチューブチャンネルの運営で、現在は月8本程度投稿しています。また町内に会社を設立し、宿泊施設やコワーキングスペース「ジンパ」の運営、映像関係の仕事もしています。お陰様で現在はどの事業も忙しくなってきました。まだまだやりたいことは多くあるのですが、同級生と二人

道内の地域おこし協力隊は、毎年増加し、地域活性化はもとより、地域の担い手確保など、人の流れをつくるきっかけづくりとして定着しています。全道各地で地域に新たな風を吹き込む存在として地域振興の様々な場面で活躍する隊員へのインタビューをシリーズで紹介し、活動を応援します。

で切り盛りしているせいか、手の回らない事が多くなってきました。

▼コワーキングスペース「ジンパ」とはどのような場所ですか。

訪問客と弟子屈町民をつなぐ機能を持つ場所です。観光目的でふらっと立ち寄る場所というよりは、移住や定住などを念頭に置いている方が来られた方が、より良い結果が得られると思います。ジンパ近郊にはホテルもあるので、中長期的な利用も可能です。日中は無人店舗として営業しており、今後はさらに多くの人と人が繋がることのできる拠点にしたいと考えています。

▼今後はどのような活動をしていきたいか教えてください。

テレビ局勤務時代と比べて視聴者がとても身近に感じていると感じており、また、最近、町民の皆様が「まちづくり」に対して主体的になってきていることに嬉しさを感じます。任後も弟子屈町に残り、町の「魅力」や「気づき」を引き続き発信していきたいながら、今の取組をより拡大させて、「まちづくり」に関わっていきたいです。



▲川上隊員が運営するYouTubeの配信コンテンツの数々。月に合計8本、好評配信中！！



第六弾 上士幌町 地域おこし協力隊 伊藤 あかりさん

【プロフィール】
千葉市出身。専門学校卒業後、医療事務として千葉県内の小児科病院に勤める。退職後、上士幌町の「MY MICHUプロジェクト」に参加し、2021年12月より地域おこし協力隊として上士幌町認定子ども園「ほろん」で幼児教育支援コーディネーターに従事。

▼上士幌町の協力隊となった経緯を教えてください。

前職を退職後、上士幌町の滞在型体験プログラム「MY MICHUプロジェクト」に1か月間参加したことがきっかけです。当時、上士幌町のことは詳しく知りませんでした。実際に暮らしてみると、人との距離感が心地よく、また、自然豊かな環境が好きになりました。すっかり上士幌町のファンになりました。また、以前から子どもと密に触れあえる仕事があったと考えていたため、子育て支援に力を入れている上士幌町ではそれが叶えられると思い、移住を決断しました。

▼活動内容について教えてください。

上士幌町認定子ども園「ほろん」で、幼児教育支援コーディネーターとして子どもたちと地域の方との交流と国際交流の促進を担当しています。子どもたちの人間性を育む目的で、アメリカやタイとオンラインで繋いで交流するイベントを企画・運営しました。他にも、上士幌町は牧場が多く、技能実習生が多い地域性を生かし、ベトナム人の方とベトナム料理と一緒に食べて交流するイベントを開催しました。



▲ベトナムから来た教育実習生と園の子どもたちとベトナム料理と一緒に作って食べるイベントの様子。

母国から離れて暮らす実習生の皆さんにも、同じ町民として外に出て楽しむ機会を創出できればという思いもありました。

▼手応えや、やりがいを感じていることを教えてください。

元々、子どもたちは、こども園内にいるアメリカ人の国際交流推進員との交流はありましたが、他の外国籍の町民とのふれあいがなかったため、調整や運営に苦労しましたが、ベトナム人実習生の方々との交流イベントで、子どもたちや町民の皆さんから嬉しい反応があったときは大変やりがいを感じました。また、最近、園内でけん玉が流行ったので、地域の得意な方にけん玉を教してもらうイベントを開催しました。これも大変盛り上がりつつ嬉しかったです。



▲アメリカの交流推進員が帰国した際に、現地と園の子どもたちをオンラインで繋ぎ、アメリカの暮らしを紹介してもらった様子。

◎地域おこし協力隊サポーターが就任しました

令和6年1月に、地域おこし協力隊の相談対応や研修会の運用等を専門に行う「地域おこし協力隊サポーター」が着任しました。全道で活躍している隊員の活動充実のため、ポータルサイトでもイベントや研修等の情報を発信していますので、ぜひご覧ください！



左：平井 義一さん 右：木内 健太さん



◀「協力隊やるなら北海道！」ポータルサイト

▼協力隊の活動を通して感じている上士幌町の魅力を教えてください。

町がコンパクトなので、やりたいことを素早く実現できます。「こんなことやりたい」と口に出すと、すぐに「こんな人がいるよ」と紹介される「人と人とのつながりの深さ」があると思います。

また、頼つたら全力で応えてくれますが、干渉はしすぎないという適度な距離感も心地いいと感じています。

他にも、外遊びをしているときに見える山々や気球が飛ぶ景色も好きです。移住してから釣りや温泉、冬はスノーシューを履いてのお散歩など趣味が増え、プライベートも楽しんでいるので、上士幌町に来て100%良かったと思っています。

▼協力隊の任期終了後にやりたいことについて教えてください。

子どもたちの人間性を育むためにも、今までやってきた取組を継続することが大事と考えており、引き続き関わってきたいです。また、例えば、造形活動（アート活動）ができる機会を作るなど、様々な個性を持つ子ども達が輝けるような場所を作りたいと思っています。



ほしい情報がきっと見つかる！ 北海道移住に役立つ情報サイト・SNS

移住ポータルサイト「北海道で暮らそう！」

北海道の市町村情報をはじめ、「しごと」や「住まい」など、暮らしに必要な情報をまとめて発信中！



「北海道で暮らそう！」 公式SNS

北海道の移住イベント情報など
随時配信中！まずはSNSで、北海道
とつながりませんか？



Instagram

Facebook

LINE

DOORS,hokkaido

道内各地のイベント、暮らしやコ
ミュニティ、新しい「かかわり方」
を実践する人たちの情報等、北海道
の関係人口情報を発信中！

DOORS. hokkaido

北海道の扉を開こう。



北海道型ワーケーション ポータルサイト

個人・企業の皆様の多様なニーズに
オーダーメイドで対応する「北海道型
ワーケーション」をご案内しています。



公式YouTube

「移住だべさ！北海道チャンネル」

移住PR動画や移住者インタビュー、
北海道の仕事や地域でのワーケーショ
ン動画など100本以上公開中！

チャンネル
登録

よろしく
お願いします



「創る」バックナンバーは、“ほっかいどう応援団会議ポータルサイト”へ

バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議

検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>